

インターンシップ受け入れ企業との面接について

インターンシップ受け入れ企業との面接は、インターンシップ希望者の意思や人柄を確認するための非常に大事な場面です。スカイプ面接の場合、直接担当者とお会い出来ない分、音声とカメラで判断をされるので、通常の面接よりも明るく元気な調子で答えるよう気をつけましょう！

【企業がチェックする可能性が高い項目】

- ・ コミュニケーション力(日本語又は英語)
- ・ 人柄(雰囲気や明るさ 特に海外では人柄が重視される)
- ・ 今までの経験
- ・ 仕事(研修)で何がしたいのか
- ・ インターンシップを通じて何を習得したいか
- ・ 他のスタッフとの協調性

【インタビューで気を付けること】

- ・ 担当者とのコミュニケーションをとる感覚で明るく返答する
- ・ 返答内容を暗記したような印象を与えないようにする(スカイプだからといって文章などを読まない)
- ・ 企業担当者があなたの顔を見て、声を聞くのは、この機会のみですので、できるだけ好印象を与えられるよう、明るく話をしましょう。

【面接の準備】

<服装・ヘアメイク>

- ・ ビジネススーツ着用(指定の服装がある場合を除く)
- ・ 応募するポジションにふさわしいメイク(度を越した茶髪、ネイル、つけまつげは控える)
- ・ タトゥーがある場合は、書類審査前に当社に連絡すること。(隠せる部分なのか、それとも見える部分なのか)

<面接場所について>

- ・ SKYPEでカメラ付きの場合、思っている以上にお部屋の中が丸見えです。かならず部屋を整理しておくこと。
- ・ 面接一週間前には、画像と音声の確認をしてください。

【聞かれる可能性が高い質問】

あくまでサンプルですので、これらの質問が絶対ではありませんが、答えられるように準備はして



一般社団法人
日本国際人材育成協会

おきましょう。

Q1: 自己紹介をお願いします。

面接では「自己紹介をしてください」と言われることもあります。

こんな場合、よくやってしまうのが本当に自分のことをまとめて自己紹介してしまうことです。

特に中途採用を行う時というのは、欠員が出たり、新規事業に取り組みたい…という風に欲しい人材というのがある程度明確なことが多いものです。

ですから、採用担当者は何が聞きたいかという、あなたが「企業が求めている人材」にどれだけ近い人物か…ということです。

そのため、その企業が求めている内容を中心にして話をするのが一番ということになります。

例えば、募集している職種が営業職であったならば前職での営業経験などを中心に話すことができます。

未経験の場合でも、今までの経験が募集している職種に対してどのように役立つのかを説明するといいでしょう。

新卒の場合であっても、今まで大学でやってきた経験などを踏まえて話をするといいいと思います。

また、転職回数が多い方の場合、話すことは多くあるとは思いますが、特に今応募している企業にとって重要な内容をピックアップして話をするといいいと思います。

Q2: 前職の職務内容を教えてください。

どんな仕事をしていて、それが自社にとってどんな役に立つかが知りたいために聞く質問です。

ですから、何でもいいからやっていたことを全部答えるのはNG。

今応募している職種や職務内容にどのように役立つのかを考えて答えましょう。

あまり長くなりすぎるのもいけません。

Q3: (当社への) 志望動機を聞かせてください。

採用担当者はこの質問から何が知りたいのでしょうか？

「何故この会社・このポジションに応募したのですか？」と質問されて、自分のことばかりを話す人がとても多いです。自分に合っている、自分が好きな仕事だから、自分でも続けてゆけそうな仕事だから、自分が持っている資格を生かせそうだから…という風に。また、「海外が好き。海外に住みたいから」なんていうとんでもない志望理由を語ってしまう方も稀にいます。よく聞いてみると、全部自分が気に入った理由ばかりを述べているわけですね。

そして、それが志望動機だと思っている！

勿論、それも動機の1つでしょう。でも、会社が何を求めているか…が全く出てきていませんね。それでは、会社は、この人は自分勝手に会社のために仕事を本当にしてくれるのだろうか…と誤解されてしまいます。

大切なのは、まず会社が何を求めていることを知ること。

それに対して自分が何を貢献できるのか？ということを会社に伝えることが大切ではないでしょうか。

会社には企業理念というものがあります。ですから、会社はその企業理念にあった人材が欲しいわけですね。

大切なのは、あなたがその人材かどうか…ということ。

自分の経験や信念、大事にしてきたことなどを会社の企業理念に盛り込んでゆくといいでしょう。転職者の場合は職務経験があるわけですから、そういったことも志望動機の中に含めてゆくことです。自分は何ができるか…だから応募した…ということを伝えてゆくことができると良いと思います。

Q4: この会社でどんな仕事をしたいですか？

会社としてはあなたの希望を聞いているというよりは、何ができますか(この会社にどういう貢献ができますか？)と聞いていると思ってください。ですから、具体的にどういう貢献ができるかを答えることが大切です。

Q5: あなたの長所と短所を教えてください。

面接でよくある質問の1つが長所や短所に関する質問です。

この質問は、あなたの人物像を把握することが1つの目的ですが、他にも業務適正などを見るために聞くこともあります。いずれにしても、応募先の企業にとっては、あなたを採用すべきかどうかのためにする質問ですので、その点を把握した上で回答すると良いと思います。

よくあるのが、「長所: 明るい・謙虚・誠実・努力家」「短所: 夢中になってしまう・慎重すぎる・心配性」といった回答です。

ただ、こういった回答は誰でもしてくることから、評価にはプラスにはならないでしょう。

自分の長所や短所というのは1つや2つではないはずですが。

しかし、それを全部言う必要はありません。

そもそも、自己申告なわけですから、誠実だ、努力家だ、謙虚だといっても相手はそれを信用してくれるかどうかは分かりません。

努力家だといったから採用しようということにはなりませんね。



一般社団法人 日本国際人材育成協会

ではなんでこんな質問をするんだということですが、例えば、誠実であることが仕事でどう生きているのか、というあなたなりの理由が聞きたいのです。

短所については、自分の欠点と思うところをどのようにカバーしているのか・・・ということが知りたいわけです。

そのため、この質問に答える際は自分なりのエピソードや過去の実績や仕事の仕方などの話を織り交ぜてゆくことが大切になってきます。

Q6: あなたの将来の夢は何ですか？(5年後はどのようなになりたいですか？)

応募先の企業での面接で将来の夢について聞かれた場合はどういう風に答えたらいいでしょうか。

まず将来の夢を聞かれて、いきなりプライベートの夢について語り出す方がいますが、これでは評価は低くなります。

例えば、「私は将来、海外に住みたいと思っています。インターンシップを経ていつか海外に住めたらいいなと思います。」

仕事のことが一切入っていません。むしろ、外国に住むためにはどこの企業でもいいのだなと思われるかもしれません。

面接で将来について聞かれた場合は、その職場でどのようなことをすることが夢なのか、その経験を経て仕事でどのようなことを実現したいのかを答えるのが良いでしょう。

Q7: あなたの趣味は何ですか？

中には仕事とは無関係のことを言う人もいます。これは避けた方が無難でしょう。

場の空気を読めない人だと思われるからです。

また、何でもかんでも言えばいいと思っている人もいますが、これも逆効果です。

仕事よりも趣味が優先なのではと思われるからです。

採用担当者は前向きな人、感じのよい人、やる気のある人、積極性のある人・・・は評価が高い傾向があります。

ですから、そういった人物像を趣味から連想させるような答えにする必要があるのです。

例えば、ランニングが趣味だとしましょう。

「私の趣味はランニングです。もう5年間続けています。休日は皇居の周りを走っています。汗を流しながら走っていると、仕事のアイデアが浮かんできたりすることがよくあります。また、気分転換をすることで仕事にもフレッシュな気持ちでのぞむことができます。」



一般社団法人 日本国際人材育成協会

ここでポイントが5年間継続していることが1つ。

途中で仕事を放り出さない人だろうと思わせることができます。

また、走って気持ちを切り替えることでいいアイデアが出てきたり、フレッシュな気持ちで仕事ができるという風に趣味と仕事とリンクさせている点も好感が持てます。

では実際に趣味が何もない場合はどうしたらいいのでしょうか。そんな場合は無趣味です…と正直に言っても評価が下がりますので、少し工夫してみることです。

「友人と会って、おしゃべりしたりするのが私なりの楽しみになっています。仕事で行き詰った時などは励ましてもらったり逆に相談に乗ったりすることで、失敗を乗り越えたり仕事に対して前向きに考えられるようになったと思います。」

無趣味というと、どこか後ろ向きな人と思われてしまうことがありますが、趣味はなくても前向きなところをアピールすることができます。

「前職では仕事が間に合わず休日も出勤することが多かったです。休んでいても仕事のことが気になってつい仕事をしてしまいます。」

仕事漬けの毎日という良いイメージのように思うかも知れませんが、これは仕事の要領が悪いと思われたり、オンとオフの切り替えができないために、燃え尽きてしまうのではないかと、ストレスで辞めてしまうのではと思われることもあります。

ですから、実際には仕事漬けだったとしても言い方は少し工夫しましょう。

企業としてはあなたのプライベートな部分まで口を出そうと言っているわけではありません。

ただ、プライベートな部分というのは、その人の人柄や人物像がよく見えてくることがありますので、そういった質問を面接ではするわけです。

企業が求めているのは先ほども書きましたが、前向きな人、感じのよい人、やる気のある人、積極性のある人です。それでいて、自分の会社の雰囲気や合う人だったり、企業理念に賛同できる人だったり、勿論、募集している職務内容を的確にこなすだけの力がある人を探しているわけです。

Q8:何か質問はありますか？

面接の最後には「最後に何か質問はありますか？」と逆に質問されることもあります。

そんな時には「特にありません。」と答えることもできますが、ここで最後のアピールをすることもできます。

勿論、面接中に感じた疑問などがあれば聞いても構いません。

ただ、何も質問することがなければ無理に質問しない方がよいでしょう。

そんな時はこのように答えます。



一般社団法人

日本国際人材育成協会

「本日はありがとうございました。ご丁寧に説明していただき、改めて御社で頑張りたいという気持ちが強くなりました。どうか宜しくお願い致します。」という風に答えるといいでしょう。

仕事に関する質問は基本的には歓迎されます。

具体的にどんな仕事内容なのかを聞くのはよいと思います。

ただし、仕事内容の説明を聞いている時や聞いた後の表情やリアクションに注意して下さい。曇った表情、自身のなさそうな表情をする方もいますが、それは明らかにマイナスです。

避けるべき質問としては、給与面や待遇、労働環境などに関して疑問がある場合は聞きたくなるのも当然ですが、こういった質問は印象を悪くする可能性があるので、避けるべきでしょう。

この手の質問は、エージェントの我々にご質問ください。

また、同様に社員に関する質問も基本的にはNGです。社員の平均年齢や勤続年数などを聞く人もいますが、仕事熱心な人が聞く質問だとは思えないからです。